

西日本インカレ（合同研究会）2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）

フリガナ) フクオカシヨガクインダイガク	フリガナ) シンブンガクブ	フリガナ) ウキタヒデヒコゼミ
福岡女学院大学	人文学部	浮田英彦ゼミ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ) ジャンヌ	フリガナ) カネヤマ ミナ	4	無
ジャンヌ	金山 未奈		

研究テーマ（発表タイトル）

経済産業省の概念 社会人基礎力は学べるのか？

※必ず「企画シート作成上の注意」を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

私たちは経済産業省の概念である社会人基礎力を研究テーマとしています。この力は現代社会で必要な能力と私たちは位置付けています。社会人基礎力をどのように学んだうえで後輩や社会に伝えることができるのかということが私たちのチームの課題です。

〈図1〉



その為に社会認知的キャリア理論を応用し、社会人基礎力を持ち合わせたベースチームの行動が協同学修者の有効な観察情報となりさらに同調行動が生じるような学修ができ、その一連の学修プロセスの中で社会人基礎力を体験し学習できるのではないかとこの授業方法は社会人基礎力を学ぶ手法として確立できるのではないかと考えました。

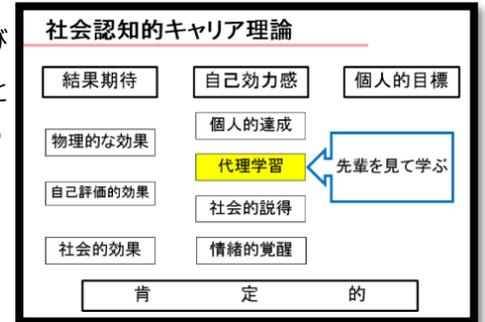
2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

【2.1 社会人基礎力】

「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として経済産業省が 2006 年から提唱している概念であり図 1 の能力から構成されています。近年、企業現場では課題発展力や実行力、チームワークなどが求められています。しかしグローバル化や高度情報化による社会情勢の変化により、これまでの伝統的な教育方法だけでは社会のニーズにこたえられなくなっている現状があるとされています。

【2.2 社会認知的キャリア理論】

他のキャリア理論で言及された意味、能力、価値観、意図、目標、自己概念および自己効力感などがどのように相互作用し合い、何の影響によって変化するかということを整理統合した理論です。社会認知的キャリア理論には人の「認知」がキャリア開発やキャリアの意思決定において重要な役割を果たすという考え方が背景にあります。



【2.3 協同学習】

小集団を活用した教育方法であり学習者を小集団に分け、その集団内の互恵的な相互依存関係を基に協同的な学習活動を生起させる技法です。しかし日本では「協同学習」に関する研究はわずかである上に教育現場に協同学習という指導方法や考え方はまだあまり広まっていないという現状があります。

3. 研究テーマの課題

企業現場では、社会人基礎力(図 1)の中にも含まれるような新しい価値創出に向けた課題の発見、解決に向けた実行力、異分野と融合するチームワークなどの能力が強く求められています。それらの能力を「自然に」磨く場であった家庭や地域社会、部活動や集団活動などにおける教育力は落ち込んでおり、「職場や地域社会で求められる能力」に係る需要と供給のバランスは大きく崩れてしまっています。「自然に」身に付くと考えられていた「職場や地域社会で求められる能力」は今、「意識して育成しなければいけない能力」になっています。しかし、それらの能力を養うための対策がほとんど設けられていないのが現状です。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

私たちの研究課題は社会人基礎力をどのように学んだうえで後輩や社会に伝えるのかということです。この課題解決のために社会認知的キャリア理論を応用することでベースチームの行動が協同学修者に有効な観察情報となりさらに同調行動が生じるような学習ができ、その一連の学修のプロセスの中で社会人基礎力を体験し学修できるのではないかと仮説を立てて研究を行いました。

【1. ベースチームの作成】

授業運営を行うベースチームが社会人基礎力を身に着ける為に用いているのは社会認知的キャリア理論の中の代理学習です。(図 2)

普段のゼミ生活を通して先輩方の社会的評価を目の当たりにする中で自己効力感の高まりが生じます。

その中で私たちも社会的評価を得ようと先輩方の真似をします。これにより少ないストレスでベースチームが成り立つのです。

【2. 授業運営】

このベースチームで授業運営を行います。私たちは社会人基礎力は行動観察から学び取られ、動機づけされると考え「観せる学修」を意識しています。この為私たちのスキルを可視化させ印象付けベースチームの作成の時のように受講生の自己効力感を高めます。その後 AIDMA を応用し興味を持たせ、協同学習でワークの体験し、受講生のか成長の可視化がされます。この授業運営の中で受講者が社会的評価を得るために私たちベースチームへの同調行動が生じました。

このようにベースチームの作成の時と同じように少ないストレスで受講者も授業を通して社会人基礎力を体験し学習できるようになりました。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

平成 28 年度の通年 30 回の 1 年生の授業の運営、指導、観察を行いながら協同学習を行っています。
また社会人を対象に社会人基礎力に関するアンケート調査、綱引きを通してのチームビルディングの効果を確かめるための実際に行った人、綱引きを行った児童の保護者を対象にアンケート調査を実施しました。

- ・授業実施 参加者:125 名（2016 年 4 月 19 日～ 通年 30 回）
- ・綱引きを通してのチームビルディングの効果測定アンケート 参加者:140 名（2016 年 6 月 4 日・2016 年 7 月 31 日）
- ・社会人基礎力に関するアンケート 社会人 50 名（2016 年 8 月 31 日～9 月 15 日）

6. 結果や今後の取り組み

社会人基礎力は成長を可視化させること、観察法を用いてどんな小さな変化でも励ますこと、実際にプロジェクトに参加させ体験させることも必要ですが、まずは学修過程でなぜそれが必要で、どのように学びに関連しているのかをよくよく考えることが必要です。また、行動観察から学びとることが多く、その観察行動から動機づけされることが多いことが分かりました。
今回実践した学修方法は、観せる学修→AIDMA を応用し興味を持たせる→上記を踏まえた協同学習でワークの体験→成長の可視化 という一連の流れで構成されています。今後この学修法により新たなベースチームが誕生、増加することで社会人基礎力を習得する機会が増え、社会人基礎力の習得方法の一つとなればと考えます。

7. 参考文献

- ・エドガー・H・シャイン（2014）『問いかける技術』英知出版
- ・アルバード・バンデューラ（1997）『激動社会の中の自己効力感』金子書房
- ・福岡女学院大学 浮田ゼミ編著（2015）『心をつかむビジュアル・ストーリー型プレゼンテーション』梓書院
- ・長尾素子・池ヶ谷浩二郎・村山貞幸・浮田英彦（2016）『高等教育における「社会人基礎力」への取組と課題』pp.29-31
- ・エリザベス＝バークレイ、パトリシア＝クロス、クリア＝メジャー（2009）『協同学修の技法』ナカニシヤ出版
- ・経済産業省 社会人基礎力

<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>（最終閲覧 2016 年 11 月 2 日）

西日本インカレ事務局への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、西日本インカレ事務局への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、3 ページ目までを渡します。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※その他、注意点については「企画シート・パワーポイントの作成および提出について」をご参照ください。